

# 経済対策におけるAI施策について（令和5年度補正予算）

令和5年度補正予算額 約3,179億円  
令和4年度補正予算額 約452億円

- 生成AIをはじめとするAIは、創造的な業務にも利用できる可能性が高く、人手不足対策や利益率向上・賃上げに有効な手段になると期待される。
- このため、既に使えるAIツールに関しては導入を促進し、追加学習が必要なAIは直ちに学習し導入に進み、さらに、日本のAI開発力の強化にも緊急に取り組む必要がある。また、AIの開発・導入のための人材育成も強化する。

## 1. リスクへの対応 9.9億円

- 国際的なルール形成への貢献  
【総】AIに関する継続的な国際的ルールの形成への貢献 2.0億円
- 偽誤情報対応のための技術開発等  
【総】我が国における大規模言語モデル（LLM）の開発力強化に向けたデータの整備・拡充及びリスク対応力強化（NICT等）※ 100億円の内数  
【文】文化芸術活動に関する法律相談窓口による対応 0.7億円の内数

## 2. AI（主に生成AI）の利用促進 626.2億円

- 中小企業、医療分野、行政事務等におけるAI導入  
【内閣官房】国家公務員の働き方改革促進のための生成AI等の利活用に係る調査研究事業 0.5億円  
【内】SIP/BRIDGEにおける生成AI学習・導入支援 280.0億円  
【こども】こども・子育て分野における生成AI利用に係る調査研究 10億円の内数  
【デジ】マイナポータル コンシェルジュ手続概念実証 デジタル庁一括計上予算の内数  
【デジ】生成AIの業務利用に関する技術検証、利用環境整備 デジタル庁一括計上予算の内数  
【総】総務省働き方DXの推進 0.2億円  
【外】生成AI活用のための環境構築 0.6億円  
【文】校務における生成AIの活用事例創出 2.1億円  
【文】生成AIを活用した校務・授業実践研究の実施 2億円の内数  
【厚】生成AIを活用した患者還元型・臨床指向型の循環システム（医薬健栄研） 12.0億円  
【厚】生成AIを活用した新規がん・難病治療薬創生（医薬健栄研） 5.0億円  
【厚】霊長類の全ゲノム解析と生成AIによる疾患関連遺伝子の同定（医薬健栄研） 3.0億円  
【厚】統合創薬AIプラットフォームを活用したAI創薬の推進 3.0億円  
【厚】厚生労働分野における生成AIをはじめとするAI分野への諸対応、その他緊急的な調査等に対する研究事業 1.4億円  
【厚】生成AI導入実現可能性調査事業（NCCHD） 0.6億円  
【経】AI製品も支援対象となるIT導入補助金の利用推進 2,000億円の内数

## 3. AI開発力の強化 2,388.0億円

- 計算資源の確保  
【文】生成AIに対応した次世代半導体研究開発の環境整備 3.3億円  
【経】経済環境変化に応じた重要物資サプライチェーン強靱化支援事業（クラウドプログラム） 1,166.0億円  
【経】生成AIの基盤的な開発力強化に資する計算資源の整備（産総研） 400.0億円  
【経】ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業（生成AI基盤モデル開発事業） 290.0億円（6,773億円の内数）
- データ整備及びアクセス提供等  
【総】我が国における大規模言語モデル（LLM）の開発力強化に向けたデータの整備・拡充及びリスク対応力強化（NICT等）※ 100億円の内数
- 基盤モデルの透明性・信頼性の確保等の研究開発力の強化  
【文】生成AIモデルの透明性・信頼性の確保に向けた研究開発拠点形成（NII） 42.4億円  
【文】科学研究向け基盤モデルの開発・共用（理研） 121.6億円
- 次世代AI人材育成プログラムの推進  
【文】国家戦略分野の若手研究者及び博士後期課程学生の育成（次世代AI人材育成プログラム）（JST） 213.1億円

※ 我が国における大規模言語モデル（LLM）の開発力強化に向けたデータの整備・拡充及びリスク対応力強化（NICT等）は、「1. リスクへの対応」及び「3. AI開発力の強化」で予算を分計している。

（注1）本資料には、主に生成AIを対象としている取組を記載。なお、上記の予算総額及び1.~3.の集計額には、生成AIに限定せずAI関連予算全体の額が含まれる。

（注2）事業費の一部等、AI関連予算額を抽出困難な施策分は、予算総額に含まず。

（注3）上記の他、AIの研究開発等を支える基盤整備等の予算として、154.8億円を計上。